

先週私たちは、キリストが歩まれたように私たち自身も歩むことの大切さを学びました。キリストが歩まれたような歩みとは、消極的には罪を犯さない歩みであり、積極的には父なる神様の御心を求めて生きる歩みのことです。主イエスは、十字架の死までも、父なる神様の御心に従い通されたわけですが、そこまで主イエスを突き動かしたのは、何だったのでしょうか？それは神様の愛です。主イエスはその父なる神様の愛に対して、愛をもってお応えになられたのです。

Last week we learned that we must walk as Christ did. To walk like Christ means, in a passive way, not to sin, and in a positive way, to live by God's will. Jesus followed God's will even to His death on the cross – what moved Jesus to go that far? - It is God's love. Jesus responded to God's love with His own love.

今日のテキストにおいて、神様は私たちにこう命じておられます。「世をも、世にあるものをも、愛してはなりません」（15節）。愛することはすばらしいことです。けれども、何でも愛せば良いというものではありません。そこには私たちが愛すべきものと、そうでないものがあるのです。唯一なる神様を愛することと、隣人を愛することとは聖書の教えるところですが、世と世にあるものは愛してはいけないと神様はいわれるのです。

The scripture today tells us this: “Do not love the world or anything in the world. (v. 15)” To love is a great thing, but that does not mean we can love everything. There are things we should love and things we shouldn't love. The Bible tells us to love the One and only God and love your neighbors, but it says not to love the world and the things in it.

世と世にあるものとは何でしょうか？16節を見て下さい。「すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです」と。肉の欲とは何でしょうか？それは私たちが自己中心にものごとを考えるとこから生まれる自分を満たそうとする欲のことです。それは多くの場合、私たちの目を通して入ってくる情報によって刺激されます。そして、さらに自分を満たしたいという欲は強くなります。また、それらの欲によって獲得した持ち物や経験や立場をもって、私たちは他者と比較し、自慢したりするのです。神様は、それらすべて世に属するものを愛してはいけないと私たちに命じておられるのです。

What is the world and the things of the world? Let's look at verse 16. “For everything in the world—the lust of the flesh, the lust of the eyes, and the pride of life—comes not from the Father but from the world.” What is the lust of the flesh? It is the desire to fulfill oneself which comes from selfish thinking. Often times it is stimulated by the information that come through our eyes. And the desire grows. And we often compare and boast about what we have, what we experience, and situations that we earned through this desire. God tells us not to love these things that belong to this world.

しかし、どうでしょうか？この世がなければ、私たちは存在することができません。そういう意味で、神様がこの世と接点を全く持っていないことを言われているのではないことがわかります。神様は、それを愛してはいけないと言われるのです。では、神様はなぜこの世を愛してはいけないとおっしゃるのでしょうか？それは、世を愛することと、神様を愛することが相反することだからです。私たちは両方を愛することはできません。神様を愛するゆえに、隣人も愛する人は、それによって神様の栄光を現わします。けれども、世を愛する人は神様の栄光を現わすのではなく、自分に栄光が帰すことを望みます。なぜなら、自分自身が満たされることが第一の目的だからです。ですから、この世を愛する時、私たちは神様から離れた存在となり、神のいのちは私たちのうちにはないのです。

However, we cannot exist without this world. God is not saying we should not have anything to do with this world. He tells us not to love the world. Why? Because to love the world and to love God are contrary. We cannot love both. A person who loves his/her neighbor with the love for God shows God's glory. But a person who loves the world wants his/her own glory, not God's, because his/her goal is to fulfill his/herself. Therefore, when we love the world, we part from God and God's life is not within us.

このことは、12節から14節に繰り返しのよう記されている内容からもわかります。つまり、クリスチャンはみな主の御名によって罪赦され、神の子とされた存在です。御子イエス・キリストを通して私たちは、初めからおられる方である父なる神様を知ったのです。そして、この方によって永遠のいのちを得、光の中を歩む者とされました。ですから、私たちはもはや悪い者の支配下ではなく、聖なる神様に属する者とされたのです。そのような私たちがすから、父なる神様と御子イエス・キリストを愛することは当然のことです。けれども、そこで私たちが世を愛するとしたら、どうなるのでしょうか？再び悪魔の支配下に戻ることはないのでしょうか？

We can see this also from the passage mentioned repeatedly in verses 12 to 14. Christians are the ones who have been forgiven by the Name of Jesus and made into God's children. We came to know God the Father through the Son Jesus Christ. And we received the eternal life through Jesus and were made to be the ones to walk in the light. So we belong to the Holy One, not under control of the evil anymore. It is natural for us to love God the Father and the Jesus the Son. What then if we love the world? Won't that bring us back to Satan's control?

人類最初の人であるアダムとエバの失敗は、神様だけを愛するところから、神様の禁じられたものを愛そうとしたところに原因があります。彼らはサタンに誘惑されて罪を犯してしまったわけですが、その内容は次のとおりです。創世記3章4-6節、「そこで、蛇は女に言った。『あなたがたは決して死にません。5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。』3:6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた」。

The failure of the first of mankind, Adam and Eve, was caused by their desire to love what God told them not to. They sinned tempted by Satan. The story goes like this: Genesis 3:4-6: "You will not certainly die," the serpent said to the woman. <sup>5</sup> "For God knows that when you eat from it your eyes will be opened, and you will be like God, knowing good and evil." <sup>6</sup> When the woman saw that the fruit of the tree was good for food and pleasing to the eye, and also desirable for gaining wisdom, she took some and ate it. She also gave some to her husband, who was with her, and he ate it. '

悪魔の誘惑を受けた時、その実を食べて満たされたいという肉の欲と、目に慕わしいという目の欲と、神のように賢くなって誇りたいという欲とが、彼らの心を支配しました。そこでアダムとエバは、神様のみことばにではなく、悪魔の声に聴き、神様に禁じられていた木の実を食べてしまったのです。彼らは神様を愛することよりも、自分を愛することを選択しました。その結果、神様とのいのちの関係は絶たれ、死が彼らのうちに入ってきたのです。このところからもわかるように、神様を愛することと、世を愛することは相反します。

When they were tempted by Satan, their hearts were occupied by the desire of the flesh – "good for food," the desire of the eye – "pleasing to the eye," and the desire to gain wisdom like God. So Adam and Eve listened to Satan's voice instead of God's and ate the forbidden fruit. They chose to love themselves, not God. As a result, the relationship with God was broken and death entered. As we see here, to love God and to love the world conflict.

もしかしたら、このなかには「私は神様もこの世も両方を愛することができる」と言われる方がおられるかも知れません。しかし、それは愛ではなく、単に両方を好むという感情的なことを意味しているのでしょうか。私たちは同時にいくつかのものを好きになることはできます。しかし、それを愛することはできません。なぜなら、感情的に好むということと愛することとは違うからです。愛するとは、相手のために自分を与えることであり、相手が大切にしていることを自分でも大切にする事です。神様が世と世のものを愛してはいけなと言われるなら、その命令に従うことが神様を愛することです。ですから、ヨハネは15節で「もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません」と告げています。

Some of you might say, "I can love both God and the world." But that probably equates to liking emotionally. We can "like" multiple things, but we cannot "love" them. To "like" and to "love" are different. To love is to give yourself to someone and to care what someone cares for. Following God's order, "do not love the world and what's in it," is to love Him. John says in verse 15: "If anyone loves the world, love for the Father is not in them."

17節に目を向けてみましょう。「世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます」。これが世を愛してはいけなもう一つの理由です。永遠に滅びない方を愛さずに、やがて滅び去るものを愛してどうなるのでしょうか？ 私たちのいのちは、この世のものよりも遥かに大切なものではないのでしょうか？ なぜなら、この世のために私たち人間が造られたのではなく、私たちのためにこの世が造られたからです。

Let's look at verse 17. "The world and its desires pass away, but whoever does the will of God lives forever." This is another reason we should not love the world. What good is it to love something that passes away and not to love somebody who is forever? Our lives are far more valuable than this world. We were not made for this world; the world was made for us.

主イエスはこのようにおっしゃいます。「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の得がありません」（ルカ9:25）。神様のみこころは、私たちが神を愛し、また兄弟姉妹を愛することにより、永遠に生きることであって、世とともに滅び去ることではありません。神様には私たちが永遠に生かすことができになるのです。

**Jesus says, “What good is it for someone to gain the whole world, and yet lose or forfeit their very self? (Luke 9:25)” God’s will is that we live forever by loving God and people, not to pass away with the world. God can make us live eternally.**

新約聖書に、「デマス」（コロ4:14）という名の人が出てきます。彼は、かつて使徒パウロの同労者でありました。けれども、後になってパウロを捨てるのです。その理由についてパウロはこういっています。「デマスは今の世を愛し、私を捨ててテサロニケに行ってしまう」（Ⅱテモテ4:10）と。デマスは今の世を愛するゆえに、神を捨てたのです。

**A man named “Demas” appears in the New Testament. He was once Paul’s coworker. But He deserted Paul. Paul explains in 2 Timothy 4:10: “...because he loved this world, has deserted me and has gone to Thessalonica.” Demas deserted God because he loved this world.**

私たちはみな神様の愛と恵みによって神様のものとされました。しかし、神様は、その私たちを通してキリストの福音を輝かせるために、私たちがキリストの使節として世に遣わしておられます。ですから、当然のこのように私たちは世の誘惑を受けるわけです。それが私たちの戦いです。私たちは自分たちのうちから、この世を愛して主を捨ててしまう「デマス」のような人が出ることをないよう、互いのために祈り、最期まで堅く信仰を保たねばならないのです。

**We were made to belong to God by His love and grace. And God sends us to the world as ambassadors of Christ, so that gospel of Christ will shine through us. There is no doubt we will be tempted by the world. This is our battle. We have to pray for each other and keep our faith firmly until the end, so that no one will be like “Demas”.**

いかがでしょうか？ 今日あなたは神様を愛していますか？ もしここに自分のうちに二心があることを気づかされたという方がおられるならば、今主の十字架の前に立ち、悔い改めようではありませんか。そして、主の赦しをいただいて、ここからもう一度、神様を愛する歩みを出発させていただこうではありませんか。私たちは世の誘惑に対して失敗することを恐れる必要はありません。なぜなら、神様は私たちの弱さや欠けをすべてご存知だからです。その上で私たちが愛して下さっているのです。ですから、私たちは神様ご自身が自分にキリストが歩まれたような歩みをさせて下さることを信じて、主の御霊の助けを待ち望む者とさせていただこうではありませんか。すべて主に喜ばれる歩みは、そのように私たちが心で信じ、主を待ち望むところから始まります。

**Do you love God today? If you realized you are double-hearted let us stand before the cross and repent. Let us ask for forgiveness and start a new walk to love God. We don’t need to be afraid of failure by the temptation of the world because God knows all our weaknesses and faults. He loves us on top of that. Let us believe that God will make us walk like Christ did and wait upon the Spirit. The walk that pleases God starts from believing and waiting upon.**

私たちはこの後、主の晩餐（聖餐式）にあずかります。これは、私たちのためにご自分のいのちを捨てて下さった主なるイエス・キリストを私たちが覚え、その主の愛に献身をもってお応えするために、主によって定められたものです。主ご自身がこれを行なうようにと私たちに命じておられます。ですから、私たちにとってこの主の晩餐にあずかることは、主の命令に従うことであり、主を愛する行為であります。私たちが信仰をもってパンとぶどう液を受ける時、主は私たちのうちに親しく臨んでいて下さいます。そのことを覚えつつ、今日の聖餐の時をもたせていただきましょう。

**We will be receiving the Lord’s Supper (Communion) now. This was established by Jesus for us to remember that He abandoned His life for us, and to respond to His love. Jesus Himself tells us to keep this, so for us to do this is to follow His order and to love Him. When we receive the bread and the cup with our faith, Jesus remains in us. Let us keep that in mind and receive the Lord’s Supper.**